

## 高等部 木工班 作業学習 学習指導案

日 時：令和6年12月5日（木）

10:00～10:50

場 所：木工室

授業者：熊地 勇太（T1）、加藤 麻美（T2）  
石井 悟（T3）

### 1 題材名

道の駅てんのうでの販売に向けて～秋田杉の箸とデザイン箸の製作～

### 2 目 標

- (1) 箸製作に必要な機械や道具の正しい使い方、担当する作業工程の注意点や報告の仕方が分かり、安全に作業する。 【知・技】
- (2) 道の駅てんのうでの接客を意識し、「相手に聞こえる声」「目線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」に気を付けて挨拶や報告をしながら作業する。 【思・判・表】
- (3) チェックポイントや見本を基に製品の仕上がり具合を自分で確認するなど、自分の担当する工程や役割に責任をもち、仲間と協力して作業に取り組もうとする。 【学】

### 3 生徒と題材

#### (1) 生徒について

本作業班は高等部1年生男子3名、2年生男子2名、3年生男子3名の計8名である。8名のうち2名は昨年度木工班の経験があり、他の6名は初めての所属である。作業学習に対して意欲的な生徒が多く、自分の担当する作業工程に責任をもって取り組む様子が見られている。作業学習における実態としては、ゆっくりではあるが丁寧に作業を進めることができる生徒、速さはあるが雑に作業をしてしまう生徒、その日の体調により作業の効率や量が大きく変わる生徒がいる。技術面に優れている生徒が多いが、挨拶の声が小さかったり、下を向いて報告したりする様子が見られる。挨拶や報告時の「聞こえる声」「目線」「姿勢」等の態度に関することは全員に共通する課題である。機械や道具の扱い方については、全員が自分で使用する物の名称や使い方を覚えて作業することができている。作業中は教師が言葉を掛ける場面も減ってきており、製品の規格を確認しながら自分たちで作業や準備、片付けを進めることが多くなってきた。全体的に作業工程や一日の流れをよく理解し、リーダーを中心に自分たちで考えながら行動できる場面が増えてきている。

#### (2) 題材について

本題材では、12月に行う道の駅てんのうでの販売に向けて秋田杉の箸の製作をする。秋田杉の箸の作業工程としては、加工（木材の製材、かんな掛け、溝堀り）、研磨（面取り、段削り、やすり掛け）、強度チェック、塗装等があり、全部で15の工程に分かれている。これまでの学習では秋田杉の箸の製作を主な活動としながら、新製品の企画会議を行い、生徒が木材に合う色や模様を考え、箸をデザインする活動を行った。2学期はこれまで製作していた秋田杉の箸に加え、生徒が考えたデザイン箸の製作も行っている。自分たちで考えたデザインを箸にすることで、より意欲的な態度で学習に臨むことができる。また、これまでの経験を生かしながら、生徒自身が主体的に行動し、各工程の注意点を気をつけたり、製品の仕上がり具合を自分で確認したりする力を更に育てることができると考えた。秋田杉の箸とデザイン箸の製作は、流れ作業で行うため、次の工程の仲間へ製品を受け渡す活動が必要になり、共に製作する連帯感や基本的なコミュニケーション能力も育てることができる。作業製品販売会に向けた活動では、製品の製作のみならず、製品のラッピング、ちらし作りなど、販売会に向けて仲間と役割分担し、協力して取り組む必要がある。また、販売では、直接お客様とやりとりする場面があるため、「相手に聞こえる声」「目線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」を意識して相手や状況に応じてやりとりする力が必要であり、題材を通して継続的に取り組むことができると考え、本題材を設定した。

(3) 指導について（生徒の「主体的に学びに向かう姿」を引き出す工夫）

- ・自分で作業を進めることができるように、箸の規格を明確に示し、生徒に合った治具を用意する。②
- ・自分で仕上がりを確認しながら作業ができるように見本を用意する。③
- ・自分たちで考えて行動できるように、工程ごとに入れ物を分けたり、工程順を記載したりする。③
- ・作業班全体の意欲が高まるように個人と全体の出来高表を準備する。④
- ・自分の役割が分かり、自信をもって作業や報、連、相ができるようにチェックポイントを示したり、繰り返し活動を設定したりする。③

※丸数字は単元構想シート裏面参照

4 指導計画（総時数50時間 本時41/50）

題材名 ・ 主な学習活動	時数	目標	扱う教科の内容
<p>&lt;本題材&gt; ○道の駅てんのうの販売に向けて (1) 製品の製作</p>	<p>41 本時 41/50</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箸製作に必要な機械や道具の正しい使い方、担当する作業工程の注意点が分かり、安全に作業する。 【知・技】</li> <li>・道の駅てんのうでの接客販売を意識し、「相手に聞こえる声」「目線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」に気を付けて挨拶や報告をする。 【思・判・表】</li> <li>・チェックポイントや見本を基に製品の仕上がり具合を自分で確認するなど、自分の担当する工程や役割に責任をもち、仲間と協力して作業に取り組もうとする。【学】</li> </ul>	<p>国語 (聞くこと話すこと) 数学(数と計算) 美術(表現) 職業(職業生活) 家庭(衣食住の生活)</p>
<p>(2) 道の駅てんのうでの作業製品販売会  ・販売準備 (ラッピング、ちらしの作成等、販売数チェック等)</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末アプリ「POPKIT」の使い方が分かり、見やすさを考えながらちらしを制作する。 【知・技】【思・判・表】</li> <li>・ラッピングやちらしの作成など、友達と役割分担をしながら、協力して準備する。 【学】</li> </ul>	<p>美術(表現) 職業(職業生活)</p>
<p>・販売練習</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売の流れが分かり、タブレット端末アプリ「販売レジ」を使って販売する。 【知・技】</li> </ul>	<p>国語 (聞くこと話すこと) 数学(数と計算)</p>
<p>・販売会</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「相手に聞こえる声」「目線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」に気を付けて接客をする。 【思・判・表】</li> <li>・会計や袋詰めなど、友達と役割分担をしながら、協力して販売する。 【学】</li> </ul>	<p>職業(職業生活) 家庭(衣食住の生活)</p>
<p>・販売反省会</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元数から残数を引いて売れた数を計算したり、売れた数と価格を掛けて売り上げを計算したりする。 【知・技】</li> </ul>	<p>国語 (聞くこと話すこと) 数学(数と計算) 家庭(衣食住の生活)</p>

## 6 本時の計画

### (1) 全体の目標

- ・チェックポイントや見本を基に、製品の仕上がり具合を自分で確認しながら作業を進める。【知・技】【学】
- ・周囲の状況に応じて、声の大きさを調整して報告する。【思・判・表】

### (2) 個別の実態と本時の目標

生徒名	実 態	本時の目標	手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で形を確認して、やすり掛けができるようになってきている。細かい作業を得意とし、自分の工程に責任をもち、黙々と取り組む。</li> <li>・報告の声が小さく聞こえないときがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箸の持ち手や先端の形が2本とも同じになるようにやすり掛けをする。</li> <li>・相手に聞こえるように依頼や報告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で形を調整できるように、見本に寸法を記入し、調整の手掛かりとする。</li> <li>・人に聞こえる声の大きさが分かるように、その場で何度か練習する時間を設ける。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で確認したり、友達と相談したりしながら作業を進めることができる。作業は丁寧でミスが少ない。</li> <li>・相手に聞こえる声で報告や相談ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2本の箸が同じ形になるようにやすり掛けをする。</li> <li>・相手との距離や話す位置を考えて相談や報告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箸の形を確認しながら作業できるように、目安として見本やチェックポイントを机の上に置く。</li> <li>・報告の際の気を付けるポイントを作業前に確認する。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の流れが分かると自信をもって作業に取り組める。電子ノギスの使い方を覚えて使用できるようになってきた。</li> <li>・挨拶や報告の声の大きさや目線に課題があるが、少しずつ意識できてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箸の幅を自分で確認しながらかんな掛けをする。</li> <li>・相手に聞こえる声で報告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で作業を進めることができるように、箸の規格を視覚化し、表示が大きい電子ノギスを用意する。</li> <li>・人に聞こえる声の大きさが分かるように、聞こえない場合はその場で聞き直す。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返しの活動を行うことで自信をもち、自動かんなを使って製材ができるようになってきた。</li> <li>・声が小さく聞こえないときが多いが、目標として設定すると、意識しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動かんなのハンドルを自分で調整し、板の厚さが10mmになるまで削る。</li> <li>・声の大きさを考え、聞こえる声で報告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で調整できるように、ハンドル半回転で何mm、1回転で何mm削れるかを提示する。</li> <li>・声の大きさを自分で考えられるように、声が小さい場合には聞き返す。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの工程でも作業内容や準備物等を理解し、一人で作業を進めることができる。</li> <li>・ミスや迷うような場面があるときも自分で判断して報告や相談ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピードや効率を考え、箸の幅を自分で確認しながらかんな掛けをする。</li> <li>・失敗した時に理由も含めて報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピードや効率を考えられるように、治具を準備したり、チェックポイントを用意したりする。</li> <li>・失敗してしまった理由が分からない時は自分で考えられるようなヒントを出す。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箸の状態を自分で確認しながら意欲的に作業できる。判断に迷うと動きを止めてしまう。</li> <li>・失敗したり、迷ったりした時などに相談することを苦手としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗り残しのないように確認しながら塗装する。</li> <li>・迷ったときや心配になったりしたときに自分から報告や相談をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗り残しがないように塗装の順番が見える場所に提示する。</li> <li>・作業の動きが止まっているときは近くで見守り、自分から相談が難しそうな場合には、「そういうときはどうしますか」と言葉を掛ける。</li> </ul>

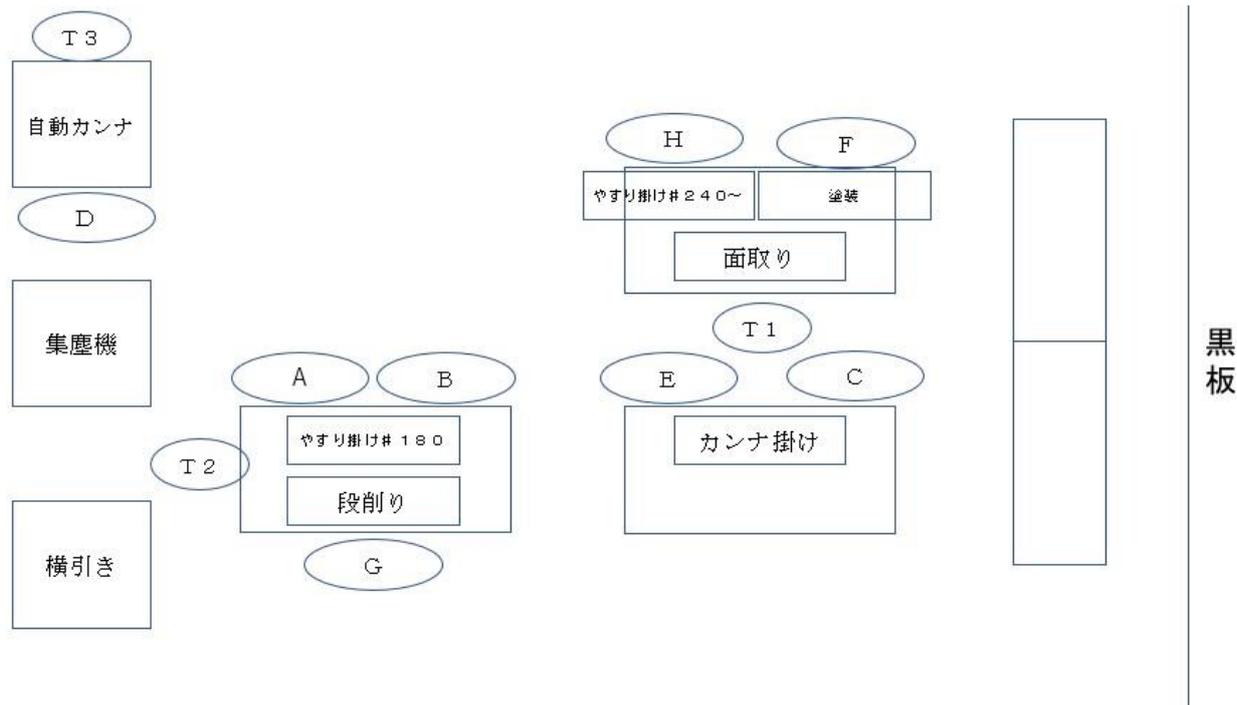
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちが安定しているときは、安全に段削りができる。気持ちが不安定になると作業効率が落ち、工程通りに作業できなくなる。</li> <li>・安心できる環境では、自分から報告や相談ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のこぎりの刃の角度に気を付け、飾り細工を面に沿って安全に削る。</li> <li>・気持ちが不安定になってきたら、自分から担当の教師に「休憩します」と伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に面に沿って削ることができるように治具を準備する。</li> <li>・気持ちが不安定になっても報告できるように作業場所を整える。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で見本を確認しながら意欲的に作業できる。常に見本を見ながら作業することが多く、1本の製作に時間がかかる。</li> <li>・自分から報告や相談ができるが、声が小さく聞こえないときがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕上がり具合やスピードを考えて、やすり掛けをする。</li> <li>・相手に聞こえる声や姿勢に気を付けて報告や相談をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイマーを準備し、どのようにやすり掛けをすればスピードが上がり、効率が良いかを教師と一緒に考える。</li> <li>・「もう一度報告してください」などと言葉を掛けて、どのくらいの声の大きさがよいか伝える。</li> </ul>

### (3) 学習過程

時間	学習活動	手立て・指導上の留意点																		
5	1 始めの会をする。 (1) 挨拶 (2) 教師の話 (3) 作業訓、5S環境  めあて <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕上がり具合を自分で確認しながら作業する。</li> <li>・声の大きさを調整して報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が中心となって進めることができるように、教師は進行の補助をしたり、必要に応じて助言したりする。</li> <li>・生徒が見通しをもって作業できるように、作業工程表を黒板に掲示する。</li> <li>・自分がどの工程を担当するかが分かるように、作業工程表の下に生徒の名前カードを貼る。</li> <li>・5S環境の「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」の意味が分かるように、掲示物を工夫する。</li> <li>・めあてをより意識できるように、「仕上がりで確認の仕方」や「機械音があるときの声の大きさ」等を具体的に伝える。</li> <li>・販売に向けて意欲をもって作業できるように、日にちや進捗状況、目標数を確認する。</li> </ul>																		
25	2 各工程に分かれて秋田杉の箸とデザイン箸を製作する。  <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>生徒</th> <th>担当する作業工程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>やすり掛け#180</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>やすり掛け#180</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かんな掛け</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>製材</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>かんな掛け</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>塗装</td> </tr> <tr> <td>G</td> <td>段削り</td> </tr> <tr> <td>H</td> <td>やすり掛け#240～</td> </tr> </tbody> </table>	生徒	担当する作業工程	A	やすり掛け#180	B	やすり掛け#180	C	かんな掛け	D	製材	E	かんな掛け	F	塗装	G	段削り	H	やすり掛け#240～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を通して、一貫した指導ができるように、各テーブル(各作業工程)の担当職員を決め、作業の模範を示したり、報告を受けたりする。</li> <li>・自分たちで考えて行動できるように、工程ごとに入れ物を分けたり、入れ物に工程順を記載したりする。</li> <li>・安全に気を付けて作業を進めることができるように、十分な作業スペースを設ける。</li> <li>・流れ作業のようにスムーズに次の工程の担当者に受け渡しができるように、生徒が作業する配置を工夫する。</li> <li>・安全に作業を進めたり、規格に沿った箸を作ったりすることができるように治具を用意する。</li> <li>・安定した力で作業ができるように作業台の高さを調整する。</li> <li>・自分で形を調整できるように見本を置いたり、チェックポイントを提示したりする。</li> <li>・自分の作業の進み具合が分かるように個々の出来高表を準備する。</li> </ul>
生徒	担当する作業工程																			
A	やすり掛け#180																			
B	やすり掛け#180																			
C	かんな掛け																			
D	製材																			
E	かんな掛け																			
F	塗装																			
G	段削り																			
H	やすり掛け#240～																			
10	3 後片付け、掃除をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで役割分担して掃除ができるように、清掃順を固定し、手順を掲示する。</li> </ul>																		
10	4 反省会をする。 (1) 日誌記入 (2) 本時の出来高や反省点の発表 (3) 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標について振り返り、自己評価することができるよう、日誌記入や発表の時間を設ける。</li> <li>・次の作業意欲につながるように、今日の出来高表を掲示する。</li> </ul>																		

※波下線は抽出生徒に対する手立て

(4) 配置図、座席表



(5) 評価

【生徒】

- ・仕上がり具合を自分で確認しながら作業することができたか。
- ・声の大きさを調整して報告することができたか。

【教師】

- ・チェックポイントや見本を基に製品の仕上がり具合を自分で確認しながら作業を進めるための教材・教具や支援は適切であったか。
- ・周囲の状況に応じて、声の大きさを調整して報告するための支援は適切だったか。